

21 世紀ヒューマン・インタラクション・リサーチ・センター

2007 年度の活動記録

1. シンポジウム

1) 第6回シンポジウム

日時：2007 年 9 月 18 日（火） 16:00～18:00

場所：東洋大学白山校舎 井上円了ホール

テーマ：キャンパスの中のカルト：心理学は何をすべきか

司会：

安藤清志（東洋大学社会学部）

話題提供者：

福岡晶子（大阪商業大学）

R. B. チャルディーニ（アリゾナ州立大学）

西田公昭（静岡県立大学）

櫻井義秀（北海道大学）

指定討論者：

今井芳昭（東洋大学社会学部）

2) 第7回シンポジウム

日時：2007 年 9 月 19 日（水） 10:00～12:00

場所：東洋大学白山校舎 井上円了ホール

テーマ：裁判員制度とメディア報道を考える

司会：

黒沢香（東洋大学社会学部）

話題提供者：

五十嵐二葉（東京弁護士会）

浜田寿美男（奈良女子大学）

臺宏士（毎日新聞社）

小城英子（聖心女子大学）

3) 第8回シンポジウム

日時：2008 年 3 月 8 日（土） 14:00～17:00

場所：東洋大学白山校舎 6 号館 6101 教室

テーマ：「裁判員の心理的負担：理解とケアに向けて」

司会：

黒沢香（東洋大学社会学部）

話題提供者

Robert Precht（ニューヨーク州弁護士）

Ann W. Reed（ウィスコンシン州弁護士）

神谷説子（The Japan Times 記者）

四宮 啓（早稲田大学、弁護士）

2. 研究交流会

「島崎プロジェクト研究会」

・第1回

日時：2007年8月21日（火）18:00より

場所：宮崎市

講師：四方由美（宮崎公立大学）

テーマ：「宮崎市の現状および地域情報化・地域メディアについて」

・第2回

日時：2007年8月23日（木）18:00より

場所：熊本市

講師：守弘仁志（熊本学園大学）

テーマ：「熊本市の現状および地域情報化・地域メディアについて」

3. 学会活動

片平冽彦（東洋大学社会学部）・山本由美子（東京大学大学院医学系研究科）『「薬害C型肝炎」事件における製薬企業と国の責任（第2報） 非加熱第Ⅲ因子製剤の場合』 第33回日本保健医療社会学会大会 2007年5月19日

Yumiko YAMAMOTO(CJD Support Network Counselor), Meneto UEDA(Chairman of the Japan CJD Support Network), Kiyohiko KATAHIRA(Toyo University), Minae ASAKAWA(CJD Support Network Counselor), Ibuki YAMAMURA(CJD Support Network Counselor), CJD Support of Japan. CJD Foundation Family Conference 2007, July 8, 2007 in USA, Washington D.C.

片平冽彦（東洋大学社会学部）『タミフル薬害と国の対応（第1報）異常行動という「重大な副作用」の肯定から否定、そして実質的な肯定へ』 第48回日本社会医学会総会 2007年7月22日

安藤清志（東洋大学社会学部）・多田智一（学生職業総合支援センター）・結城裕也（東洋大学）『対人サービス従業者の感情制御方略：職務満足、バーンアウトとの関連』 日本社会心理学会第48回大会 2007年9月24日

今井芳昭（東洋大学社会学部）『情報の提示順序、自我関与度が説得への応諾に及ぼす影響』 日本心理学会第71回大会 2007年9月

今井芳昭（東洋大学社会学部）『2段階・3段階のフット・イン・ザ・ドア法とドア・イン・ザ・フェイス法の比較』 日本社会心理学会第48回大会 2007年9月22日

小城英子（聖心女子大学）・畑中美穂（筑波大学）・福岡欣治（静岡文化芸術大学）・松井豊（筑波大学）・安藤清志（東洋大学）・井上果子（横浜国立大学）・板村英典（関西大学）『ジャーナリストの惨事ストレス（5）放送ジャーナリストの惨事ストレス対策に対する意識』 日本心理学会第71回大会 2007年9月18日

畑中美穂（筑波大学）・福岡欣治（静岡文化芸術大学）・小城英子（聖心女子大学）・松井豊（筑波大学）

・安藤清志（東洋大学）・井上果子（横浜国立大学）・板村英典（関西大学） 『ジャーナリストの惨事ストレス（6）放送ジャーナリストが経験する惨事の特徴とストレス反応』 日本心理学会第 71 回大会 2007 年 9 月 18 日

福岡欣治（静岡文化芸術大学）・小城英子（聖心女子大学）・畑中美穂（筑波大学）・松井豊（筑波大学）・安藤清志（東洋大学）・井上果子（横浜国立大学）・板村英典（関西大学） 『ジャーナリストの惨事ストレス（7）放送ジャーナリストの日常ストレスとソーシャルサポート』 日本社会心理学会第 48 回大会 2007 年 9 月 22 日

竹中一平（筑波大学）・西道実（プール学院大学）・清水裕（昭和女子大学）・堀洋元（日本大学）・水田恵三（尚絅学院大学）・松井豊（筑波大学）・田中優（大妻女子大学）・福岡欣治（静岡文化芸術大学）・新井洋輔（筑波大学）・元吉忠寛（名古屋大学） 『広域災害における避難所運営訓練システムの開発（3）』 日本心理学会第 71 回大会 2007 年 9 月 18 日

水田恵三（尚絅学院大学）・松井豊（筑波大学）・西道実（プール学院大学）・清水裕（昭和女子大学）・田中優（大妻女子大学）・福岡欣治（静岡文化芸術大学）・堀洋元（日本大学）・元吉忠寛（名古屋大学）・新井洋輔（筑波大学）・竹中一平（筑波大学） 『新潟中越地震における避難所の事例研究（4）—地域の紐帯を中心として—』 日本心理学会第 71 回大会 2007 年 9 月 18 日

大島尚・田中淳・今井芳昭・加藤司・安藤清志（東洋大学社会学部） 『地域の防災とコミュニティ意識』 日本心理学会第 71 回大会 2007 年 9 月 18 日

清水 裕（昭和女子大学） 『社会的アイデンティティに他者からの評価が及ぼす影響（2）—集団内他者・集団外他者からの所属集団・本人への否定的評価—』 日本心理学会第 71 回大会 2007 年 9 月 18 日

福岡欣治（静岡文化芸術大学） 『日常ストレスに関する友人への自己開示とソーシャル・サポート—開示に対する友人の受容的反応とサポート、気分状態の関連性（2）—』 日本健康心理学会第 20 回記念大会 2007 年 9 月 1 日

福岡欣治（静岡文化芸術大学） 『友人サポートおよび母親の養育態度と大学生の共感性との関係』 日本応用心理学会第 74 回大会 2007 年 9 月 8 日

山本由美子（東京大学大学院医学系研究科）・片平冽彦（東洋大学社会学部）・浅川身奈栄・山本伊吹・上田宗（CJDサポートネットワーク） 『薬害ヤコブ病患者家族が受けた被害と被害者支援のあり方～訪問面接調査による考察～』 全国難病センター研究会第 9 回大会 2007 年 10 月 27 日

片平冽彦（東洋大学社会学部） 『タミフル薬害と国の対応の問題点』 新医協第 60 回総会・全国研究総会 2007 年 11 月 25 日

久保ゆかり（東洋大学社会学部） 『園での行事経験について語ることの発達—幼児は自分の感情経験をどのように語るか』 日本発達心理学会第 18 回大会 2008 年 3 月 19-21 日

片平冽彦（東洋大学社会学部） CDJ Foundation Family Conference 2007 別紙資料（片平責任により山本由美子作成）

4. 論文

片平冽彦 2007 年 8 月 「タミフル薬害と国の対応の問題点」 『医学評論』 No.107, 新日本医師協会, pp17～23.

片平冽彦 2007 年 11 月 「区社会福祉分野 8 被災者・被害者と福祉 ③食品公害・薬害被害者への援助」 『エンサイクロペディア社会福祉学』 仲村優一・一番ヶ瀬康子・右田紀久恵監修, 中央法規, pp1092～1095.

片平冽彦 2007 年 11 月 「社会的につくられる『障害者』—薬害・副作用被害の場合(上)」 『みんなのねがい』 487 号, 全国障害者問題研究会出版部, pp32～34.

片平冽彦 2007 年 12 月 「社会的につくられる『障害者』—薬害・副作用被害の場合(下)」 『みんなのねがい』 488 号, 全国障害者問題研究会出版部, pp32～34.

片平冽彦 2007 年 12 月 「薬害の被害者支援と根絶のために 第 4 回 薬害イレッサ事件(1)」 『季刊 Nurse eye』 20 巻 4 号, pp89～93.

東京消防庁活動安全課・松井豊・畑中美穂 2007 年 「惨事ストレスに関する調査検証」 『火災』 286, pp18～24.

板村英典・松井豊・安藤清志・井上果子・福岡欣治・小城英子・畑中美穂 2007 年 「ジャーナリストのストレスをめぐる研究状況—日本におけるマス・メディア論及びジャーナリスト研究を中心に—」 筑波大学心理学研究, 33, pp29～41.

水田恵三・堀洋元・西道実・松井豊・竹中一平・元吉忠寛・清水裕・田中優 2007 年 「新潟中越地震後の避難所の研究」 尚絅学院大学紀要, 54, pp63～76.

畑中美穂・松井豊・丸山晋・小西聖子・高塚雄介 2007 年 「消防職員のための PTSD 予防チェックリスト作成の試み」 立正大学心理学部研究紀要, 5, pp23～30.

小城英子・畑中美穂・福岡欣治・松井豊・安藤清志・井上果子・板村英典 2007 年 「放送ジャーナリストの惨事ストレス対策に対する意識」 横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援総合センター紀要, 7, pp75～94.

畑中美穂・福岡欣治・小城英子・松井豊・安藤清志・井上果子・板村英典 2007 年 「放送ジャーナリストが経験する惨事ストレスの特徴とストレス反応」 横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援総合センター紀要, 7, pp95～118.

福岡欣治・小城英子・畑中美穂・松井豊・安藤清志・井上果子・板村英典 2007 年 「放送ジャーナリストにおける日常ストレスとソーシャル・サポート—惨事ストレス対策に向けた基礎資料として—」 横浜国立大学大学院教育学研究科教育相談・支援総合センター紀要, 7, pp119～142.

松井豊 2007 年 「親密な関係と離死別」 坂本真士・丹野義彦・安藤清志(編) 『臨床社会心理学』 東京大学出版会, pp157～176.

松井豊 2007 年 「救援者のこころのケア」 吉井博明・田中淳・浦野正樹・大矢根淳（編）『災害社会学入門』 弘文堂, pp92～98.

松井豊（研究代表） 2007 年 「ジャーナリストの惨事ストレスケアに関する心理学的研究」 報道人ストレス研究会

松井豊 2007 年 「地域防災力を支援するプログラムの方向性」 西道 実（編）地域防災コミュニティの活性化と家庭内防災力の向上に関する研究, 平成 17 年度～平成 18 年度科学研究費補助金（基盤研究（C））研究成果報告書 pp92～97.

今井芳昭 2008 年 「2 段階、3 段階のフット・イン・ザ・ドア法とドア・イン・ザ・フェイス法の比較」 東洋大学社会学部紀要, 45, pp73～86.

※各プロジェクトに参加するメンバーは以下の通りである。

〔研究員〕

安 藤 清 志（東洋大学社会学部教授）〔統括責任者〕
島 崎 哲 彦（東洋大学社会学部教授）
大 島 尚（東洋大学社会学部教授）
杉 山 憲 司（東洋大学社会学部教授）
久保 ゆかり（東洋大学社会学部教授）
北 村 英 哉（東洋大学社会学部教授）
今 井 芳 昭（東洋大学社会学部教授）
片山 美由紀（東洋大学社会学部准教授）
田 中 淳（東洋大学社会学部教授）
片 平 洌 彦（東洋大学社会学部教授）
黒 澤 香（東洋大学社会学部教授）
古 川 考 順（東洋大学ライフデザイン学部教授）
細 井 洋 子（東洋大学社会学部教授）
原 山 哲（東洋大学社会学部教授）
加 藤 司（東洋大学社会学部講師）

〔客員研究員〕

小 口 孝 司（千葉大学准教授）
稲 沢 公 一（法政大学教授）
清 水 裕（昭和女子大学准教授）
松 井 豊（筑波大学教授）
福 岡 欣 治（静岡文化芸術大学准教授）

〔リサーチ・アシスタント〕

結 城 裕 也（東洋大学大学院社会学研究科）
本 田 周 二（東洋大学大学院社会学研究科）
佐 藤 史 緒（東洋大学大学院社会学研究科）
下 田 俊 介（東洋大学大学院社会学研究科）

CJD Foundation Family Conference 2007
(ヤコブ病財団 家族会議 2007 年 7 月 米国ワシントン) 概要報告

2007 年 7 月 6 日から 9 日にかけての 4 日間、米国ワシントン DC にて、CJD(クロイツフェルト・ヤコブ病)患者家族の国際会議が以下の行程で開催され、各国から患者家族、医療関係者、研究者、支援者が参加した。日本からは、支援者 2 名、薬害 CJD 患者遺族 3 名が参加した。

1 日目 CJD インターナショナルサポートアライアンス会議

米国、英国、豪州、イタリア、日本の支援者ら 20 名が集まり、各国の抱える問題や支援策についての話し合いがもたれた。各国の問題は共通しており、CJD に関する一般市民向けの教育、患者家族のネットワークづくりの各国のあり方について発表、意見交換し、日本におけるインターネットの掲示板を利用した相談事業に対して各国の支援者は関心を示していた。

2 日目 研究者による発表

ナショナルサーベイランスセンターからの報告、新しいタイプのプリオン病、血液中のプリオン、病型別プリオンの比較、治験薬の実験結果報告、免疫療法などについて報告があった。日本からは東北大学の堂浦医師より日本の治験の報告が行われた。新しい治療法など、医療の進歩に期待を寄せ、研究者の発表を毎年聞きに来ているという各国の CJD 患者の家族が多数みられた。

3 日目 各国支援者からの発表

米国からは各州の患者数の報告、支援状況が報告され、英国からは支援者からの発表のほか、キナクリンという治験薬を用いて治療中の患者の家族によるビデオ放映があった。日本からは、日本における CJD の発生状況、サポートネットワークの活動の紹介のほか、2007 年 5 月から行われているインタビュー調査の中間報告を行った。

発表終了後、各国の患者家族の交流の時間があり、多くの患者家族が日本のテーブルを訪れ、コメントや励ましの言葉をかけたり、テーブルを回りながら自己紹介をしたり、介護経験を話しながら共感しあう様子がみられた。また、最終日に予定されていた米国議会訪問用に日本のサポートネットが作成した BSE 関連要請文書に関心を寄せた米国の弁護士と交流し、BSE 全頭検査の必要性について意見交換をした。

4 日目 米国議会訪問

米国議会下院議員 Kaptur 氏の秘書、Aderholt 氏の主任スタッフを訪問した。米国でも各種重要書類作成は、秘書はスタッフが行うとのことで、これらの人々に要請文書を提出することは重要とのことで、作成した文書を読み上げ、アピールした。今回はただ会議に参加するだけでなく、日米間で問題になっている BSE 関連の話題についての意見を述べ、CJD 支援の国際的活動に貢献することができた。議会訪問は支援者だけでなく、日本の薬害 CJD 患者遺族も参加したため、印象深いアピールとなったと思われる。また、支援者にとっても遺族にとっても、BSE 問題への関心を持つことは、薬害だけでなく食の安全に目を向ける良い機会であったと考えられる。

以上のように 4 日間の報告、討論、交流から、薬害 CJD 被害者支援から立ち上がった日本の薬害 CJD 患者遺族とサポートネットワークの支援者は、今までなかなか接触できなかった薬害以外の患者家族と交流し、共通する困難や異なる困難を学び、他国は日本の発表から、薬害被害による影響を知り、相互に学びあうことができた。

この会議は、支援者同士が学びあうだけでなく、各国からの参加者との交流を通して、日本の薬害 CJD 患者家族がエンパワーされることも期待される。開催国、参加国は英語圏の国であり、討論などには言語の問題があるものの、今回は 4 日中 3 日間通訳を依頼し（日本の CJD サポートネットより）、スムーズに終えることができた。

今後も各国との情報交換や、日本の活動報告等をおこない、また、患者家族のエンパワーメントのためにも、この会議への積極的な参加を検討する必要があると考えられる。

山本 由美子

東京大学大学院 医学系研究科 健康科学・看護学分野 健康社会学教室